

インフォメーション・コーナー

会 告

学会創立 80 周年記念式典・祝賀会について（再）	66
社団法人農業農村工学会第 42 回通常総会の報告	66
平成 21 年度名誉会員の推挙	67
平成 22 年度農業農村工学会賞候補の推薦について（再）	68
第 33 回水の週間「ウォーターフェア 09 東京」農業用水の展示出展について（再）	68
平成 21 年度 JABEE 農学系分野審査講習会への参加のお願い（再）	69
平成 21 年度「戦略的研究申請支援」の助成金募集について（再）	69
学会誌掲載報文等による通信教育の参加者募集!!	70
「農業農村工学会学術基金」の募金について	70
農業農村工学会災害対応調査団専門別調査団員登録についてのごお願い	70
身近にある水利遺構で表紙を飾ろう!!	
「水土の知（農業農村工学会誌）」平成 22 年夏季の表紙写真の募集	71
「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！	72
国際学会「国際水田・水環境工学会」入会のごお願いと国際ジャーナル 「Paddy and Water Environment」について	73
国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のごお願いと 2009 年 1 月から 2011 年 12 月までの編集事務局（投稿先）のお知らせ	73
第 60 回関東支部大会講演会の開催について ㊦	74
第 64 回中国四国支部講演会の開催について（第 2 報） ㊦	75
平成 21 年度東北支部総会・第 52 回研究発表会ならびに第 43 回支部研修会・第 33 回地方講習会の 開催について（第 2 報） ㊦	77
第 66 回京都支部研究発表会の開催について（第 2 報） ㊦	78
学会記事	80

第 77 巻第 8 号予定

展望：持続的社會とバイオマス利用：片山秀策

小特集：地域バイオマスの利活用 多様な地域バイオマスの利活用推進に向けた農業農村工学の貢献

バイオマス総合利活用総合評価モデルの開発：森本英嗣ほか

宮古島の活性化を支援するバイオマス研究の展開：凌 祥之ほか

小規模バイオガス施設の消化液農地還元率による経済性評価：岡庭良安ほか

菜の花プロジェクト・夢を追いかけて 宮城県角田市の事例：富樫千之ほか

バイオ燃料生産のための資源作物栽培技術体系の評価：清水夏樹ほか

技術リポート

北海道支部：オオタカ営巣地周辺の管工事における繁殖モニタリング：小枝郁哉ほか

東北支部：農業農村整備における設計 VE の取組み：三浦 学

関東支部：中山間地域総合整備事業における多目的広場の展開：木下雅公ほか

京都支部：炭素繊維シートを用いた樋門の補強事例：谷垣和彦

中国四国支部：黒磐地区地すべり対策事業の抗打工事における基礎地盤内での空洞対策事例：阿部雄二ほか

九州支部：複雑な硬質混在地層での大深度地下ダム施工：平良徳栄ほか

小講座：メタン改質水素とマイクログリッドシステム：秀島好昭

私のビジョン：未来を拓くバイオマス利活用：柚山義人

農業農村工学会行事の計画

農業農村工学会行事について、下表のように計画しています。奮って参加下さるよう、お待ちしております。

⊕のマークは、技術者継続教育認定プログラムとして認定されたもの、および認定申請中のものを表しています。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
平成21年 8月3日	創立80周年記念 行事実行委員会	学会創立80周年記念式典・祝賀会		東京都	77巻57号
平成21年8月 4～6日	大会運営委員会	平成21年農業農村工学会大会講演会 ⊕		つくば市	76巻12号 77巻3号
平成21年9月 3,4日	畑地整備研究部会	第47回畑地かんがい研究集会 ⊕	地域の特徴を活かした畑地 農業の展開	岐阜県内	77巻35号
平成21年9月 10,11日	農村計画研究部会	第31回現地研修集会 ⊕	農山漁村(ムラ)のこころ	札幌市	77巻56号
平成21年 10月21日	関東支部	第60回講演会 ⊕		千葉市	77巻7号
平成21年10月 27,28日	九州支部	第90回講演会・シンポジウム 第32回講習会・現地見学会 ⊕		鹿児島市	77巻6号
平成21年10月 28,29日	中国四国支部	第64回講演会 ⊕		徳島市	77巻57号
平成21年 10月29日	東北支部	第52回研究発表会 ⊕		青森市	77巻67号
平成21年 10月30日	東北支部	第43回支部研修会・第33回地方講習会 ⊕		青森市	77巻67号
平成21年11月 5,6日	京都支部	第66回研究発表会 ⊕		富山市	77巻57号

学会創立80周年記念式典・祝賀会について(再)

当学会は、創立以来会員のたゆまぬ努力により、農業農村分野における学術・技術の向上と社会の発展に大きく貢献してきました。

しかし、近年における農村の過疎化・混住化、農業従事者の高齢化の一層の進行に伴う諸問題への有効な対策のみならず、地球温暖化がもたらす農業への影響対策も大きな課題となっている中で、会員1万余名を擁する当学会が、会員の英知を結集して果たすべき役割は、益々増大しているといえます。

当学会が平成21年度に創立80周年を迎えるのを機に、これまで積み重ねてきた先人たちの努力に思いを致し、学術・技術の向上に更なる努力を傾け、社会の期待に応えて今後大きく発展するため、新たな出発点となるにふさわしい記念行事を行うことは、大きな意義があると思われま。

この創立80周年記念事業を円滑に遂行するために、創立80周年記念行事実行委員会(委員長:石川県立大学 青山教授)を設置し、検討を行ってきました。

委員会において決定された記念式典の次第は下記のとおりです。なお、詳細は、学会ホームページ「新着情報:学会創立

80周年記念式典・祝賀会について」をご参照願います。

記

1. 日時 平成21年8月3日(月) 14:00~18:40
2. 場所 東京都港区虎ノ門4-1-1
虎ノ門パストラル

3. プログラム

- 14:00~ 開会挨拶 実行委員長 青山咸康
- 14:10~14:20 学会長挨拶(10年の歩み) 宮崎 毅
- 14:20~14:30 来賓ご挨拶 文部科学省
- 14:30~14:40 来賓ご挨拶 農林水産省
- 14:40~15:50 記念講演 JT生命誌研究館館長 中村桂子
- 15:50~16:00 お祝いの言葉 韓国農業工学会長
- 16:00~16:10 お祝いの言葉 台湾農業工程学会長
- 16:10~16:20 お祝いの言葉 名誉会員代表 沢田敏男
- 16:20~17:00 感謝状授与 賛助会員より選考
- 17:00~17:05 閉会の挨拶
- 17:15~ 記念祝賀会

社団法人農業農村工学会第42回通常総会の報告

第42回通常総会を開催したので、報告いたします。

1. 日時 平成21年5月27日(水) 14:00~15:00
2. 場所 農業土木会館6階大会議室
3. 出席者(代議員総数110名)

出席代議員10名、議決事項について書面で意思表示をした

ことにより出席とみなされる代議員13名、委任状提出の代議員69名、計92名

4. 開会

事務局より出席代議員が、定款第30条に規定する定足数を満たしていることを確認し、成立している旨を告げ、開催を宣

した。

5. 会長挨拶 宮崎 毅会長挨拶

6. 議長選出

宮崎会長を仮議長とし、定款第 34 条の規定により議長選出を諮り、全員一致をもって斉藤正樹代議員を議長に選出した。

7. 議事録署名人選任

議長への指名一任により、議長は次の 2 名を議事録署名人に選任した。

小松 淳代議員，齋藤公三代議員

8. 議案審議

(1) 議案 1. 平成 20 年度事業報告

事務局から「第 42 回通常総会議案」により内容を説明。

原案どおり決定された。

(2) 議案 2. 平成 20 年度収支決算

事務局から「第 42 回通常総会議案」により内容を説明。

原案どおり決定された。

(3) 議案 3. 平成 20 年度事業計画

事務局から「第 42 回通常総会議案」により内容を説明。

原案どおり決定された。

(4) 議案 4. 平成 21 年度収支予算

事務局から「第 42 回通常総会議案」により内容を説明。

原案どおり決定された。

(5) 議案 5. 名誉会員の推挙

事務局から「第 42 回通常総会議案」により内容を説明。

原案どおり決定された。

(6) 議案 6. 代議員の選任

事務局から正会員による代議員候補者選挙で選出された者について説明。定款第 14 条の規定により、下記の 110 名を 6 月 1 日より任期 2 年の代議員に選任した。

また、この総会において代議員に選任された者が人事異動等になった場合、その者の所属の支部代議員候補者選考機関が推薦する者を人事異動等をした代議員の後任の代議員とすることが決定された。

所属支部：北海道

長澤 徹明 土谷富士夫 神谷 光彦 高嶺 彰
大澤 祐一 中島 克彦 長谷部友二 堀井 健次

川本 保雄

所属支部：東北

矢野 均 吉岡 裕次 泉 完 杉浦 俊弘
倉島 栄一 大久保 博 加藤 徹 佐藤 照男
美濃真一郎 安部 伸治 須藤 勝夫 高橋 清隆
佐藤 憲一 川原 幸徳 村上 克朗 大泉 裕一

渡邊 史郎 松浦 幹夫

所属支部：関東

斉藤 政満 小林 祐一 仲家 修一 長利 洋
岩田 勝男 根本 進 福田 保 若田部 満
田島 雄治 森田 春雄 内田 敏夫 高崎 明夫
加藤 啓 竹内 周二 小松 淳 南 格
播磨 宗治 西村 拓 登尾 浩助 牧山 正男
向後 雄二 松岡 延浩 小梁川 雅 後藤 章
斎藤 公三 松浦 良和 湯浅 真介

所属支部：京都

早瀬 吉雄 石黒 覚 金木 亮一 天谷 孝夫
星野 敏 工藤 庸介 河野 俊正 永嶋 善隆
川田 明宏 佐藤 浩一 竹田 淳一 栄代 博明
坪田 洋次 渡辺 吉康 松本 正夫 福岡 重栄
川崎健志郎 中村 治 北宅 久友 福田 稔
前田 健次 中尾 健 渡邊 昭弘 佐藤 康文

所属支部：中国四国

井上 光弘 長束 勇 近森 秀高 山本 晴彦
角道 弘文 松尾 芳雄 松本 伸介 中西 憲雄
鈴木 浩之 塩澤 賢一 中村 均 長崎 泰樹
大内 毅 大本 正行 福田 隆 矢野 幹雄
黒川 義夫 石山 啓二 井上 泰志

所属支部：九州

本間 泰造 渡辺 正人 青山 健治 渡邊 光邦
加納 義英 寿福 洋二 矢方 道雄 下水流 隆
知念 武 大坪 政美 細川 吉晴 高木 東
酒井 一人

9. 閉 会

以上をもって全議案の審議を終了し、総会は終了した。

平成 21 年度名誉会員の推挙

第 42 回通常総会の議により、「名誉会員の推挙に関する内規」に則って第 209 回理事会で推薦された次の正会員（敬称略）を名誉会員に推挙した。これにより名誉会員の現在数は 198 名となった。

青山 咸康 三野 徹 豊田 勝 矢野 友久
吉木 久人 石坂 仁兵 石戸谷 實 内田 喬三
久富木三郎 木幡 敏 須恵 務 田中 義朗
土田近三郎 満田 雅男 村岡 鹿次 横井 慎司

平成22年度農業農村工学会賞候補の推薦について(再)

平成22年度の農業農村工学会賞(上野賞, 沢田賞を除く) 締切りは、平成21年10月末日です。推薦書様式は学会HPを、募集要項に則って、推薦書によりご推薦下さい。をご参照下さい。

平成22年度 農業農村工学会賞 募集要項

賞の種別	学術賞		奨励賞		優秀賞				
			研究奨励賞	技術奨励賞	優秀論文賞	優秀技術賞	優秀技術リポート賞		
賞の趣旨	農業農村工学に関する学術または技術の進歩に貢献した創意ある優秀な業績		農業農村工学に関する学術または技術の進歩に寄与すると認められる優秀な業績		農業農村工学に関する学術または技術についての優秀な業績				
賞の対象範囲および期間	平成16年10月から平成21年9月までに、本学会の刊行物に発表された論文、報文等を原則とする。ただし、同一の課題につきそれ以前に発表されたものは、一連の業績として対象とすることができる。		平成18年10月から平成21年9月までに、本学会の刊行物に発表された論文、報文等を原則とする。ただし、同一の課題につきそれ以前に発表されたものは、一連の業績として対象とすることができる。		平成18年10月から平成21年9月までに、本学会の刊行物に発表された論文、報文等を原則とする。ただし、同一の課題につきそれ以前に発表されたものは、一連の業績として対象とすることができる。		平成20年10月から平成21年9月までに、本学会の刊行物に発表された論文、報文等を原則とする。	平成19年10月から平成21年9月までに、本学会の刊行物に発表された論文、報文等を原則とする。主として現場調査資料、現場技術報告書から選ぶ。	平成16年10月から平成21年9月までに、本学会の刊行物に発表された技術リポート(ただし、平成22年度の募集は農業農村工学会誌73巻4月号~77巻9月号を対象とする)
受賞候補者	会員				会員または学会誌・論文集の編集委員会の推薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績(コピー可)を1部提出する(いずれも返却しない)。		会員または会員の属する組織・団体	会員	
推薦の方法	正会員の自薦または他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績(コピー可)を1部提出する(いずれも返却しない)。				正会員の自薦、他薦または学会誌・論文集の編集委員会の推薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績(コピー可)を1部提出する(いずれも返却しない)。				

賞の種別	著作賞	教育賞	環境賞	歴史・文化賞	地域貢献賞	国際貢献賞	メディア賞	功労賞
	賞の趣旨	一般に市販されている図書の中で、農業農村工学に関する学術または技術を広く世に紹介することに顕著な貢献をなしたと認められる著者	農業農村工学教育、技術者の継続教育など資質の向上に寄与したと認められる活動で優れた業績	農業・農村の生産・生活環境の改善や生態系保全など、美しい環境の保全や創出において優れた計画および施工の事例並びに管理・保全活動	農業農村工学に関する歴史・文化を広く紹介、あるいは研究分析の業績	農村地域社会の発展・活性化に貢献した業績	農業農村工学に関する学術・技術についての、国際的な交流・調査研究で優れた業績	農業農村工学を紹介した優れたパンフレット、ビデオ作品、教材スライド、映画等
賞の対象範囲および期間	平成11年10月から平成21年9月までに出版されている一般の図書。ただし、ハンドブック・便覧の類の著書および翻訳書は対象としない。また、改訂版にあたっては全面改訂したもののみを対象とする。	平成16年10月から平成21年9月までの業績を対象とする	平成19年10月から平成21年9月までに本学会の刊行物または、関係する図書に発表されたもの。また、完工した建設物、維持保全管理活動等も対象とする。	平成16年10月から平成21年9月までの業績を対象とする	平成16年10月から平成21年9月までの活動を対象とする	平成16年10月から平成21年9月までの活動を対象とする	平成19年10月から平成21年9月までに発表された、農業土木に関連した作品を対象とする。	平成21年度末に65歳以上に達している個人
受賞候補者	著者 会員の資格の有無を問わない	会員または会員の属する組織・団体	会員の資格の有無を問わない 個人または組織・団体	会員の資格の有無を問わない 個人または組織・団体	会員または会員の属する組織・団体	会員	会員の資格の有無を問わない 個人または組織・団体	会員(名誉会員を除く)
推薦の方法	正会員の自薦または他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績(コピー可)を1部提出する(いずれも返却しない)。	正会員の自薦、他薦または技術者継続教育機構運営委員会の推薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績(コピー可)を1部提出する(いずれも返却しない)。	正会員の自薦または他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績(コピー可)を1部提出する(いずれも返却しない)。	正会員の自薦または他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績(コピー可)を1部提出する(いずれも返却しない)。	正会員の自薦、他薦または国際委員会の推薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績(コピー可)を1部提出する(いずれも返却しない)。	正会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績(コピー可)を1部提出する(いずれも返却しない)。	正会員の自薦または他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績(コピー可)を1部提出する(いずれも返却しない)。	正会員の自薦または他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。
選考の方法	学会賞選考委員会において行う							
賞の決定	理事会において行う							
表彰	農業農村工学会大会講演会において会長が授与する							
推薦締切	平成21年10月末日							
提出先	〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4 社団法人 農業農村工学会 学会賞選考委員会宛							

第33回水の週間「ウォーターフェア09東京」農業用水の展示出展について(再)

農業用水展示実行委員会

国土交通省、東京都、水の週間実行委員会主催『ウォーターフェア09東京』は例年同様「水の週間」の一つのイベントとして行われます。今年も「水の展示会」に農業用水部門として、関係諸団体の協力を得て、農業農村工学会が農業用水展示実行委員会を組織し、昨年までと同様に展示の準備を進め出展

することとなりました。

多くの方の来場をお待ちしております。

展示の場所 科学技術館(千代田区北の丸公園21)

期 日 平成21年7月31日(金)~8月2日(日)

9:30~16:50(初日のみ10:30~16:50)

平成 21 年度 JABEE 農学系分野審査講習会への参加のお願い(再)

技術者教育認定に関する検討委員会

技術者継続教育プログラム認定申請中



本年も JABEE 農学系分野審査講習会が 7 月 25 日に東京大学弥生講堂にて開催されます。多くの皆様の参加を期待しております。本講習会は JABEE 公認で、講習会の参加修了者は JABEE 審査員候補者として登録され、本審査のオブサーバー参加を経て審査員の資格が得られます。奮って、ご参加下さい。(なお、プログラム、参加申込書等、詳細は決定次第農業農村工学会ホームページに掲載する予定です。)

1. 日 時 平成 21 年 7 月 25 日(土) 9:25~18:00
(18:00 より懇親会あり)
2. 場 所 東京大学弥生講堂
〒113 8657 東京都文京区弥生 1 1 1

東京大学農学部内

<http://www.au-tokyo.ac.jp/yayoi/>

3. 参加費 5,000 円(当日現金にて支払い)
4. 懇親会費 2,000 円(当日現金にて支払い)
5. 申込方法
農業農村工学会ホームページより、申込書および審査員登録票(電子メール版)をダウンロードし、必要事項を記入の上、下記へ電子メールで申し込む。
6. 申込先 農業農村工学会事務局 菊辻 猛・花塚賀央
E-mail: hanatsuka@jsidre.or.jp
7. 申込締切 平成 21 年 7 月 17 日(金)

平成 21 年度「戦略的研究申請支援」の助成金募集について(再)

研究委員会戦略的研究推進小委員会

農業農村工学分野における戦略的研究の推進を目的とし、下記取扱い内規によって、競争的研究資金獲得をめざす研究申請書作成グループに助成を行います。助成総額は 60 万円程度(平成 20 年度、原則 1 件 20 万円以内)です。

本年度の申請締切は平成 21 年 9 月 18 日(金)です。助成金を希望される方は期限までに、必要事項を記入した申請様式(末尾参照)で研究委員会戦略的研究推進小委員会委員長宛にお申し込み下さい。

試験研究機関、行政、大学、民間等からの応募を歓迎いたします。

「戦略的研究申請支援」の助成金取扱い内規

1. 申請: 学会員は所定の申請用紙に必要事項を記入の上、「研究申請支援」の助成金の申請ができる。なお、申請者の資格は、後述の「4 助成対象」に示すとおりとする。
2. 認定: 研究委員会戦略的研究推進小委員会は、「研究申請書作成グループ」の申請内容(申請の意義、準備の状況、将来の展望など)を検討して、助成金の配布グループと金額を決定します。なお、この決定内容は学会長に報告します。
3. 配布: 研究委員会戦略的研究推進小委員会は認定した「研究申請書作成グループ」に対し、「研究連絡費」として助成金を配布する。ただし、その配布は原則として 1 年とする。可否の認定に当たっては、科学研究費補助金以外の競争的資金に応募を予定しているグループを優先します。

4. 助成対象: 申請できる条件(助成対象)は次のとおりとする。

(イ) 具体的な研究テーマをもち、それを研究することが戦略的な意味で農業農村工学の意義と役割を対外的に示すことに貢献しうること。

(ロ) 「研究申請書作成グループ」には代表者(本学会員)をおき、構成員(本学会員以外も可)は原則として 3 名以上、それらの所属する機関が二つ以上あること。

5. 活動報告: 助成金を配布された「研究申請書作成グループ」は、助成金受領後 1 年以内に活動報告として、作成した申請書とその提出および審査の経過を、戦略的研究推進小委員会に提出すること。提出された活動報告は戦略的研究推進小委員会のデータベースに登録され、必要に応じて学会の研究申請支援活動に役立てられる。

「戦略的研究申請支援」の助成金申請様式

締切: 平成 21 年 9 月 18 日

申込先: 戦略的研究推進小委員会委員長宛

E-mail: tkiku@jsidre.or.jp

必要記載事項:

- (1) WG 名(または部会名)
- (2) 代表者名・所属
- (3) 参画者名・所属
- (4) 研究テーマ名(仮)
- (5) 研究の目的と内容(500 字程度)
- (6) 研究資金申請応募先(予定)

学会誌掲載報文等による通信教育の参加者募集!!

行事企画委員会

技術者継続教育機構通信教育部会

通信教育を平成18年11月より本格実施しております。学会誌購読による自己学習で最大年間10CPDポイント、また、通信教育で最大年間18CPDポイント取得できますので、是非、通信教育にご参加下さい。

1. 参加会員の募集

参加をご希望の正・学生会員で、かつ機構会員の方は、農業農村工学会のホームページ (<http://www.jsidre.or.jp>) にある参加申込書に必要事項を記載してメール (E-mail: cpd@cpd.jsidre.or.jp) あるいは FAX (03 5777 2099) でお送り下さい。

なお、この機会に農業農村工学会、継続教育機構への入会を希望される方は、同様にホームページ (<http://www.jsidre.or.jp>, <http://www.jsidre.or.jp/cpd>) に申込様式がありますので、ご記入の上お申し込み下さい。

2. 申込期限

参加は、いつからでも可能です。

3. 内容

問題は3カ月前の学会誌の報文等から、機構通信教育部会が作成し掲載します。

問題は択一式で、毎回10問出題します。報文の事実的内容から作成し、回答はメールで機構に送信していただきます。

採点の結果、7割以上正解で1CPDポイント、満点で15CPDポイントが取得でき、機構会員の継続教育記録に自動的に登録されます。

解答は技術者倫理に則り、自らの責任において作成していただきます。

4. 参加費

学会会員のための行事の一環として実施するため、学会が必要経費を負担しますので、当分の間、通信教育参加費は無料です。

「農業農村工学会学術基金」の募金について

農業農村工学会は、農業農村工学の学術・技術の発展を通じて、わが国農業の近代化に大きく貢献できたものと自負しています。しかし、昨今の日本の農業はかつてない厳しい環境におかれ、農業農村工学の役割も従来に増して一層重要なものとなり、東南アジアをはじめとして全世界的な展開が望まれる状況になっています。

そのためには、若い世代の育成、新たな技術の開発や国際交流の進展が図られなければなりません。学会は、これら諸活動に資するものとして、平成3年4月に学術基金を創設し、これに上野賞基金や富士岡研究奨励基金を統合し、さらに法人・個人有志からの拠出金等をもってこの基金に充てることとしております。

つきましては、会員各位からの多くのご支援をいただきたく、お願い申し上げます。

なお、この学術基金による助成は、平成20年度までに49件の実績をあげています。

個人会員一口 5,000円 (何口でも可)

法人会員一口 50,000円 (何口でも可)

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。

銀行：みずほ銀行新橋支店

普通預金 No.1569058

口座名 (社) 農業農村工学会学術基金

郵便振替：00140 2 54031

加入者名 農業農村工学会学術基金

農業農村工学会災害対応調査団専門別調査団員登録についてのお願い

災害対応特別委員会

農業農村工学会では、近年における地震、豪雨等による災害が各地に発生し、農地・農業用施設等に甚大な被害をもたらしている状況に鑑み、それら災害の原因究明、復旧対策工法の採用等に対する支援を行う組織として、災害対応特別委員会を設置しています。

この災害対応特別委員会では、「農地・農業用施設に甚大な被害が発生した自然災害」、「学術的見地から緊急調査が必要と判断される自然災害」に対して、災害発生後、直ちに災害

対応調査団を派遣し、調査の実施、復旧支援を行う体制を整備しています。

そこで、災害対応調査団を組織しなければならない事態が生じた時に、早急に対応できるよう、調査団のメンバーを希望される方は事前に登録の申請をお願いします。審査の結果、登録された会員は、災害対応調査団候補者名簿(2年毎更新)に記載して、緊急災害等の場合に現地調査を行って頂きます。

なお、災害対応調査団の団員の資格および派遣の条件は、以

下のとおりです。

調査団の候補者は、高度な専門知識を有する農業農村工学会員とする。

派遣する調査団員は、候補者名簿の中から選定する。

調査団の派遣期間は、原則 2~3 日とする。

調査団派遣に関わる旅費は、農業農村工学会が後日精算する（年度予算限度額 300 万円）。

調査団員に対して、調査に必要なと考えられる保険を掛け

る。

調査団は、調査結果を速やかに報告する。

上記の趣旨をご理解のうえ、学会事務局 FAX 03 3435 8494, E-mail saigai@jsidre.or.jp までお申し込み下さい。様式は農業農村工学会ホームページ（<http://www.jsidre.or.jp>）よりダウンロードして下さい。多数の応募をお待ちしております。

なお、登録頂いた個人情報、災害対応調査にのみ活用し、適切に取り扱います。

身近にある水利遺構で表紙を飾ろう !! 「水土の知（農業農村工学会誌）」平成 22 年夏季の表紙写真の募集

学会誌編集委員会では、平成 22 年も引き続いて皆さまからの写真で表紙を飾ることとします。

趣 旨

わが国は急峻な地形であることや水田稲作が発達したことに起因して、水を制する、水を利用するための土木的施設が数多く造られてきました。それら用水路、頭首工、堰堤などの水利施設は、今も過酷な自然の猛威にさらされながらも、農業経営、防災などの面で人々の生活を支えています。また、それぞれの機能を発揮するとともに、年月を重ねることでその地域の自然や文化にとけ込み、その景観を構成する要素として不可欠なものもあります。それが大規模プロジェクトで建設されたものでなくとも、私たちが調査・研究・事業の対象としている農村地域には、規模に違いこそあれ立派に機能美と景観美を放つものが存在します。

農業・農村の現場で活躍される皆さま、日頃何気なく見過ごしているかもしれない水利遺構とそれを含み景観の美しさを再評価いただき、忙しい業務の合間にも、足を止め、手を休めて写真として記録いただき、広く学会員にご紹介下さい。特に今回は、「夏」が感じられる「水利遺構」の写真を募集いたします。

記

1. テーマ

「水利遺構：先人たちの技術と苦労が垣間見える造形美」（昨年と同様）

2. 対象巻号

学会誌第 78 巻 7~9 号（平成 22 年 7~9 月号）

3. 写真の種類

単写真、組写真いずれもカラープリントで（デジタルカメラの場合は JPEG ファインモードまたは TIFF モードに設定）撮影して下さい（サイズは六ツ切）。組写真の場合は、その旨明記して下さい。

4. 枚数

応募写真に制限はありませんが、未発表のものに限ります。

5. 締切 平成 21 年 9 月 30 日（夏季の写真）

6. 審査

審査委員会（編集委員と写真家）で選考します。

7. 結果発表

学会誌第 78 巻第 1 号で採用作品と掲載号を発表し、採用作品は平成 22 年度大会会場でパネル展示します。

8. 謝礼

採用作品には規定の賞金（1 点につき 3 万円）をお支払いします。また、応募者には記念品をお送りします。

9. 「Cover History（表紙写真由来）」について

採用作品の応募者には学会誌掲載の「Cover History（表紙写真由来）」をご執筆頂きます。ご執筆の詳細は、採用決定時に応募者に直接お知らせします。なお、些少ですが原稿料をお支払いします。

10. 使用权

採用作品の使用权は（社）農業農村工学会に属します。

11. 注意点

応募された被写体の季節が極端に偏ることから、募集する季節ごとに締切を設けさせていただきました。

審査は上記の趣旨を十分理解されている写真であるか、表紙写真の質として耐えうるかということを重視します。具体的には、水利構造物の形状や機能が、その写真から十分に読みとれること（花などの情緒物に埋没しないこと）、また、デジタル画像の場合は表紙に拡大したときにドット崩れしない十分な解像度があること、が採用の条件となります。

12. 応募方法および応募先

学会ホームページより、応募票をダウンロードし、タイトル、郵便番号、住所、氏名、年齢、職業、電話番号、性別、写真のテーマ、撮影場所、撮影年月日、撮影データ（フィルム、使用カメラ等）、対象物の固有名称（固有名詞）、対象物をめぐる歴史的背景等の説明を記入し、応募写真の裏面に貼付してお送り下さい。

なお、原則として、応募写真は返却しません。

〒105 0004 東京都港区新橋 5 34 4

（社）農業農村工学会

農業農村工学会誌編集委員会「表紙写真公募」係
☎03 3436 3418 FAX 03 3435 8494

E-mail : suido@jsidre.or.jp

「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！

学会誌編集委員会

自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には、農業農村工学会ホームページに掲載の「農業農村工学会誌投稿要

項」,「農業農村工学会誌原稿執筆の手引き」を熟読の上、ご投稿下さい。

学会誌 77, 78 巻の小特集のテーマ

小 特 集 テ ー マ	要 旨 締 切 (A 4 判 1,500 字以内)	原 稿 締 切 (刷 上 り 4 ページ厳守)
77 巻 8 号 地域バイオマスの利活用	公募終了	
9 号 食料自給力の向上に向けた農業農村工学 (仮)	公募終了	
10 号 学会創立 80 周年記念企画 (仮)	公募せず	
11 号 農村地域における被災時の支援 (仮)	公募終了	平成 21 年 7 月 31 日
12 号 小規模灌漑施設のマネジメント (仮)	平成 21 年 7 月 24 日	平成 21 年 9 月 15 日
78 巻 1 号 鳥獣害の状況と対応策 (仮)	平成 21 年 8 月 25 日	平成 21 年 10 月 15 日
2 号 農業水利施設におけるリスクマネジメントの取組み (仮)	平成 21 年 9 月 25 日	平成 21 年 11 月 13 日

今後取り上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集しておりますので、学会誌編集委員会あてにお寄せ下さい。なお、小特集テーマが仮題となっているものは、予告なく変更することがございます。

採用された原稿の分量は、刷上り 4 ページとなっておりますので、ご執筆の際には厳守いただきますよう、お願いいたします。

ます。

送付先 〒105 0004 東京都港区新橋 5 34 4

(社) 農業農村工学会 学会誌編集委員会あて

☎03 3436 3418 FAX 03 3435 8494

E mail : henshu@jsidre.or.jp

77 巻 12 号テーマ「小規模灌漑施設のマネジメント」

中小河川や圃場近傍に整備される小規模灌漑施設は、地域住民の生活や文化と密接に関係しており、農家、地域住民の創意工夫や個性が入ったものも多く見られます。この小規模灌漑施設の利点として、農家自らが施設を維持管理できるため水利用への認識が高まること、末端の水需要の変化に補助水源、自己水源等で柔軟に対応し水資源を有効に利用できること、地域の特色を生かしたブランド農産物生産や畑作転換などへ適用できること、等が挙げられます。

このように多くの機能を有し、農業農村工学技術の工夫が

入った小規模灌漑施設を、貴重な地域の資産として農家や地域住民が協働で維持管理してゆくことは、今後の農業農村整備に重要と認識されます。

そこで、石積み堰、溪流取水工、地下水路、井戸水灌漑、簡易水路、揚水水車灌漑など地域住民の生活、歴史、文化に密接に関係し、農業農村工学のオリジナリティをもった小規模灌漑施設の、整備、維持管理における管理労力、コスト、生産性等の問題に対する取組みについて論じるべく本小特集を企画しました。会員の皆様からの多数の投稿をお待ちしております。

「オフィス便り」・「キャンパス便り」・「私の薦める本」の原稿を募集しています！

学会誌には、会員の職場や学校を紹介するコーナーとして、「オフィス便り」・「キャンパス便り」、また、会員が薦める書籍などを紹介するコーナーとして、「私の薦める本」を設け、随時募集しております。多くの会員が身近な情報を提供することにより、学会誌を親しみやすいものにするともに、気軽に投稿できるコーナーとして活用していただきたいと考えております。

内容は、学会誌としての特徴を持ちつつ、他の機関誌とは違ったもので、できるだけ学会に関係のある内容、たとえば、

「オフィス便り」は、「事業実施において特色ある技術の導入」・

「技術的に工夫した点」や「地域の魅力」、「技術者継続教育」・「技術力の向上」・「技術者倫理」など。

「キャンパス便り」は、「研究室の研究内容」・「学科紹介」など。

上記の内容を中心に、より広く事業や地域、また大学や研究室の紹介、その他の取組み状況を含めて、職場、学校として特徴のあるもの。

原稿の長さは、刷上り 2 ページ (4,000 字程度) で、写真を 1~2 枚程度入れて下さい。

「私の薦める本」は、「書籍」・「その他の著作物」など。原稿の長さは写真等を含め刷上り 1 ページ以内 (1,200 字) で、原稿

には表紙の写真を含めて下さい。

奮ってご投稿下さい。

国際学会「国際水田・水環境工学会」入会のお願いと 国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」について

国際水田・水環境工学会 (International Society of Paddy and Water Environment Engineering : PAWEES) は、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を創刊し、2009年6月末に Vol 7, No 3 が発刊されました。

本ジャーナルは、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関わる研究論文、技術論文が多数掲載されますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。たくさんの方々が国際学会へ入会されることを希望します。

掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑 (水配分管理, 水収支, 灌漑施設, 栽培管理)
- ② 排水 (排水管理, 排水施設)
- ③ 土壌保全 (土壌改良, 土壌物理)
- ④ 水資源保全 (水源開発, 水文)
- ⑤ 水田の多面的機能 (洪水調節, 地下水涵養など)
- ⑥ 生態系の保全 (水生, 陸生動物植物の生態系)
- ⑦ 地域計画 (農村計画, 土地利用計画など)
- ⑧ パイオ環境システム (水田農業と水環境, 土壌環境, 気

象環境)

- ⑨ 水田の多目的利用 (田畑転換, 施設園芸)
 - ⑩ 農業政策 (農村振興, 条件不利地の支援策など)
- 水田農業を通じた国際的な研究交流, 情報交換の場として, 皆様の国際学会への入会をお勧めします。

国際学会に入会されますと, 会員には国際ジャーナルが, 年4回無料で配布されます。

出版社: Springer-Verlag 社 (ドイツ)

発刊スケジュール: 2003年3月創刊, 以後3カ月ごと

国際学会会費: 正会員 12,000 円/年/4 冊 (送料等学会負担)

学生会員 (院生含む) 8,500 円/年/4 冊 (送料等学会負担)

申込先: 農業農村工学会編集出版部 馬目あて

ホームページ: <http://www.jsidre.or.jp>

入会のお申込は, 学会ホームページ <http://www.jsidre.or.jp/publ/ij/scope.htm> の「5. APPLICATION FORM FOR THE REGULAR MEMBER」にご記入のうえ, メールまたは FAX でお申し込みいただけます。

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2009年1月から2011年12月までの編集事務局 (投稿先) のお知らせ

国際水田・水環境工学会 (International Society of Paddy and Water Environment Engineering) は、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を創刊、2009年6月末に Vol 7, No 3 が発刊されました。

わが国においても学術誌の評価に、SCI (Science Citation Index) の IF (Impact Factor) が利用されており、本国際ジャーナルでも IF の取得により高い評価の定着を目指しています。

また、世界 13 カ国から Editor (14 名) を選出することにより、国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし、さらに国際的な流通を考慮して、国際出版社として著名な Springer Verlag 社からの刊行です。

掲載論文は、Review, Article, Technical Report および Short Communication の 4 種類です。

投稿から掲載までの時間を短縮するとともに、SCI 獲得のために年 4 回の発行としております。投稿者は国際学会員に限りませんが、**投稿料、掲載料などを無料**として投稿者の負担を軽くするように配慮されています。

2009年1月から2011年12月までの編集事務局 (投稿先) は、台湾になります。

投稿先: Yu-Pin Lin, Ph. D., Professor

Department of Bioenvironmental Systems Engineering National Taiwan University

No. 1 Sec 4 Roosevelt Road, Taipei, 10617 Taiwan (R. O. C.)

E-mail: yplin@ntu.edu.tw

TEL: +8862 2 3366 3467

FAX: +8862 2 2363 5854

(During Jan. 2009 to Dec. 2011)

編集方針: 水田農業における土地と水と環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としている。

その分野は、水田農業地帯における灌漑と排水、土壌保全、土地資源や水資源の保全と管理、水田の多面的機能、農業政策、地域計画、パイオ環境システム、生態系の保全、水田保全、田畑輪換等 である。

編集体制

• Editor in Chief: Dr. Yoshisuke Nakano (Japan)

Professor Emeritus, Kyushu University, Japan

• Editors 13 カ国から 14 名

• Editing Board 32 名

• Managing Editors

Chief Managing Editor : Dr. Soon-Jin HWANG
 Department of Environmental Science, Konkuk University, Seoul, Korea
 Dr. Yutaka MATSUNO
 Faculty of Agriculture, Kinki University, Nara, Japan
 Prof. Dr. Masaru MIZOGUCHI
 Department of Global Agricultural Science, University of Tokyo, Tokyo, Japan
 Prof. Dr. Tsugihiko WATANABE
 Research Institute for Humanity and Nature (RIHN)

Kyoto, Japan
 Prof. Dr. Ke-Sheng CHENG
 Department of Bioenvironmental System Engineering, National, Taiwan University, Taipei, Taiwan, Rep. of China
 出版社 : Springer Verlag 社 (ドイツ)
 投稿資格 : 筆者全員が国際学会員であること。
 投稿要領等 : <http://www.jsidre.or.jp> に詳細を記載していません。

第60回関東支部大会講演会の開催について

技術者継続教育プログラム認定申請中



1. 主催 社団法人 農業農村工学会関東支部

後援 農林水産省関東農政局, 千葉県

2. 支部大会講演会及び講習会

(1) 日時 平成21年10月21日(水)

- ・受付 9:30~10:30
- ・講演会 10:30~14:00
(昼食 12:00~13:00)
- ・講習会 14:30~16:00
- ・大会 16:20~17:00

(2) 会場 千葉県教育会館

- ・受付 受付ホール
- ・講演会 大ホール, 本館 203 本館 303
- ・講習会 大ホール
- ・大会 大ホール

【会場問合せ先】

千葉県教育会館 ☎043 227 6141
 〒260 0013 千葉市中央区中央 4 13 10

3. 情報交換会

- (1) 日時 平成21年10月21日(水) 17:30~19:30
- (2) 会場 プラザ菜の花4階「楨」 ☎043 222 8271
(千葉県教育会館から徒歩3分)

4. 支部大会講演会および情報交換会の参加申込方法

(1) 申込み

「第60回農業農村工学会関東支部大会参加申込書」に必要事項をご記入し、所属機関ごとに取りまとめのうえ、E-mail または FAX、郵送にてお申し込み下さい。

- ・郵送にてお申込みの場合は、控えをとっておいて下さい。
- ・支部大会、講演会および講習会をみの参加の場合においても、お申込みをお願いします。

(2) 申込期限 平成21年8月31日(月)

(3) 参加費

- ・講演会 4,000円
(昼食代は含まず、当日受付脇にて昼食券購入も可)

・情報交換会 4,000円

(4) 会費の納入方法

参加申込みと同時に下記【会費の振込先】に全額前納して下さい。

なお、申込後のキャンセル・変更については8月31日(月)以前の申し出に限りまして、振込み手数料等の実費を差引き返金いたします。

*9月1日(火)以降のキャンセルにつきましては応じかねますので、ご了承のほどよろしく申し上げます。

【留意事項】

*振込み手数料は、各自にてご負担願います。

【会費の振替先】 千葉県庁内郵便局に振替口座開設
 《郵便局からの振込みの場合》

口座記号・番号 : 00190 6 765723 (右詰)

加入者名 : 関東支部大会参加費

(カントウシブタイカイサンカヒ)

《他行等からの振込みの場合》

店名(店番) : 〇一九(ゼロイチキュウ)店(019)

預金種目 : 当座

口座番号 : 0765723

加入者名 : 関東支部大会参加費(カントウシブタイカイサンカヒ)

*振込み元が判明できるように、所属・氏名等は必ずご記入下さい。(昨年は、未記入の方がおり大変混乱しました)

(5) 申込先および問合せ先(事務局)

〒260 8667 千葉市中央区市場町1番1号

千葉県農林水産部耕地課設計グループ

(担当 : 原田, 岩瀬)

☎043 223 2847 (直通) FAX 043 225 3789

E-mail : kantoshibu@mz.pref.lg.chiba.jp

(6) 申込様式

申込様式は、千葉県農林水産部耕地課ホームページ上にも掲載してありますので、ファイルをダウンロードし

てご利用していただくことも可能です。

http://www.pref.chiba.lg.jp/nourinsui/05_kouchi/index.html

第 60 回 農業農村工学会関東支部大会参加申込書

ふりがな 所属		電話番号	
ふりがな 申込者氏名		FAX 番号	
所属所在地	〒		
ふりがな 参加者氏名	支部大会 出席 欠席 x	CPD 番号 (教育者継続 教育機構)	報交換会 出席 欠席 x
例 ちばたろう 千葉太郎		D 123456	
			振込者 所属・氏名 千葉県 千葉太郎

* 支部大会 (講演会・講習会含み) および情報交換会の欄は、出席の場合は、欠席の場合は x を記入して下さい。

5. 講演発表者申込み方法

(1) 申込み

農業農村工学会ホームページ (<http://www.jsidre.or.jp/>) から「平成 21 年度支部大会講演会投稿票」をダウンロードし、「支部講演会の投稿票について」の 2 から 4 に従って必要事項を記載し、(5)あてにメール送信して下さい。

(2) 申込期限 平成 21 年 8 月 20 日 (木)

(3) 申込先および問合せ先
4 の(5)と同じ。

6. その他

(1) 会場への案内

千葉までの所要時間

東京駅 (総武線快速: 40 分) 千葉駅

新宿駅 (錦糸町経由: 60 分) 千葉駅

上野駅 (秋葉原経由: 55 分) 千葉駅

降車駅から会場までの所要時間: 徒歩

JR 千葉駅 20 分

JR 本千葉駅 12 分

京成千葉中央駅 10 分

モノレール県庁駅前 6 分

JR 千葉駅からバスでの所要時間: 5 分

中央バス 番乗り場 (白旗行) 中央 4 丁目下車

小湊バス " (白旗行) 中央 4 丁目下車

京成バス " (大学病院行) 中央 4 丁目下車

(2) 会場までの交通手段のお願い

当施設は無料駐車場スペースが少ないので、できる限り公共交通機関をご利用願います。

第 64 回中国四国支部講演会の開催について (第 2 報)

技術者継続教育プログラム認定申請中



平成 21 年度農業農村工学会中国四国支部講演会を 10 月 28 日 (水) 29 日 (木) の 2 日間にわたり開催いたします。

本講演会の開催要領・参加申込みについては、下記のとおりです。

多数のご参加をお待ちしております。

・ 日 程 平成 21 年 10 月 28 日 (水) ~ 10 月 29 日 (木)

1. 講演会

(1) 日 時 平成 21 年 10 月 28 日 (水)

(2) 会 場 あわぎんホール (徳島県郷土文化会館)

〒770 0835 徳島市藍場町 2 14

☎088 622 8121 FAX 088 622 8123

(3) 講演会

受付開始 9:00

開会式 9:45~10:00(4 階大会議室)

支部賞表彰式 10:00~10:20

特別講演 10:30~11:30

農村の資源を生かした商品開発で地域再生に取り組む

横石 知二 (株) いろいろ代表取締役社長

一般講演 12:30~16:50

・ 第 1 会場 大会議室 (4 階)

・ 第 2 会場 第 2・3・4 会議室 (4 階)

・ 第 3 会場 第 6 会議室 (5 階)

昼食 11:30~12:30

閉会式 16:50~17:00

2. 情報交換会

(1) 日 時 平成 21 年 10 月 28 日 (水) 18:00~20:00

(2) 会 場 ホテル グランドパレス徳島

〒770 0831 徳島市寺島本町西 1 60 1

☎088 626 1111 FAX 088 626 4565

3. 現地研修会

(1) 日時 平成 21 年 10 月 29 日 (木) 9:00~14:00

(2) コース (予定)

徳島駅前 国営総合農地防災事業 { 吉野川下流域地区 } 附帯県営防災事業 鳴門公園 (昼食) 徳島空港 徳島駅

行き先については変更する場合があります。

・ 講演申込み

1. 投稿・講演要領

(1) 講演原稿

講演原稿は、図、表、写真などを含め 1 課題 3 ページ以内とします。

投稿者は、農業農村工学会ホームページ (<http://www.jsidre.or.jp/>) の支部講演会投稿要領に従って原稿を作成し、原稿を PDF にしたファイルと投稿票をメールにより下記支部事務局宛にお送り下さい。投稿票ファイル

ルは学会のホームページからダウンロードして下さい。その際、メールの件名は「中国四国支部講演会投稿」として下さい。受領確認はメールで返信しますので、受領はがきは不要です。なお、発表時間や発表方法などについては、事務局から連絡をする場合がありますので、講演者（印）の方は必ず連絡先メールアドレスをお書き下さい。

原稿はPDFを原則としますが、それが可能でない場合は市販のA4判上質紙（コピー用紙などをご利用下さい。感熱紙は不可）に印字したモノクロ原稿を、支部講演会投稿要領3に従って投稿票とともに郵送して下さい。

(2) 講演資格

発表者のうち、少なくとも1名が会員であることが必要です。

(3) 講演方法

個人発表とし、講演補助として、液晶プロジェクターのみ準備します。

(4) 講演時間

1 課題につき 12 分程度です。

(5) 講演要旨集

申込みのあったすべての原稿を講演要旨集に収録します。なお、印刷はモノクロとなります。

(6) 参加申込み

講演者は講演申込みとは別途に参加申込み（下記）も行い、必ず参加費を納入して下さい。

(7) 原稿の締切

平成 21 年 8 月 28 日（金）必着（遅延は不可）

(8) 講演申込みおよび問合せ先

農業農村工学会中国四国支部事務局 石井 将幸
〒690 8504 島根県松江市西川津町 1060
島根大学生物資源科学部
TEL&FAX 0852 32 6556

E-mail : shibukouenkai@zoukou.life.shimane-u.ac.jp

2. 研鑽賞選考調査票について

当支部では、支部講演会において積極的に成果を発表した会員（大学・国立研究機関（独立行政法人近畿中国四国農業センターを含む）所属の会員を除く）を顕彰するために研鑽賞を設けております。この賞は、同一の口頭発表者が3年以上にわたって通算3回の発表を行った場合に授与されるもので、以前に受賞した人も受賞後の発表が通算3回に達すれば再度授与されます。

選考調査票は、この発表回数をカウントするための資料としますので、口頭発表者の今回を除く最新の講演（前受賞者は受賞対象以降のもの）2件の題目とその年度を下記の様式によりお知らせ下さい。

支部賞（研鑽賞）選考調査票

口頭発表者氏名 : _____

" 所属 : _____

学会加入年度（会員番号） : _____ () _____

No.	年度	講演 題目
1		
2		

・ 申込方法

(1) 申込書

所定の申込様式により所属機関ごとにまとめ、下記(5)までお申し込み下さい。

【申込様式】

第 64 回農業農村工学会中国四国支部講演会参加申込書

所属機関 _____

所在地 (〒 -) _____

連絡者氏名 _____

TEL _____ FAX _____

E-mail _____

ふりがな 所 属	ふりがな 氏 名	講演 希望	【28日】 参加費 (3,000円)	【28日】 昼食代 (1,000円)	【28日】 情報 交換会 (6,000円)	【29日】 現地 研修会 (4,000円)	合計 (円)
計	人	人	人	人	人	人	円

注1) 出席または必要の場合は 印、欠席または不要の場合は×印をご記入下さい。

注2) 講演者は、講演希望欄に必ず 印をご記入下さい。

注3) 28日の講演会の昼食は、当日「弁当引換所」にて配布します。（ただし、事前予約者のみ）

(2) 申込締切日 平成 21 年 8 月 28 日（金）

(3) 参加費等

参加費 3,000 円

講演会を含め、講演会に参加される方は必ずお支払い下さい。

昼食代 1,000 円

情報交換会 6,000 円

現地研修会 4,000 円

（内訳：バス代 2,000 円，昼食代 1,500 円，資料代 500 円）

(4) 参加費の納入方法

参加申込みと同時に次の銀行口座に全額前納をお願いします。

なお、申込み後の取り消し、変更については 8 月 28 日（金）以前のお申し出に限り返金

致します。

払込手数料については、振込人負担をお願いします。

【振込口座】

銀行名：徳島銀行 県庁支店

口座番号：普通 8506553

名 義 人：中国四国支部講演会実行委員会 会計 一村 章夫
 (徳島市万代町1丁目1番地 ☎088 621 2452)

☎088 621 2452 FAX 088 621 2859
 E-mail : nousansonseibika@pref.tokushima.lg.jp

(5) 参加申込み先及び問い合わせ先
 徳島県農林水産部農山村政策局農山村整備課(計画担当)一村, 安丸, 板東(成治)
 〒770 8570 徳島市万代町11

(6) 宿泊案内
 講演会事務局では、宿泊の斡旋・手配等はいたしませんので、宿泊案内は農業農村工学会ホームページ(<http://www.jsidre.or.jp>)を参照して下さい。

平成21年度東北支部総会・第52回研究発表会
 ならびに第43回支部研修会・第33回地方講習会の開催について(第2報)

技術者継続教育プログラム申請中



1. 期 日 平成21年10月29日(木),10月30日(金)

2. 会 場 青森市「ラ・プラス青い森」

〒030 0822 青森市中央1118

☎017 734 4371 FAX 017 775 1218

3. プログラム

(支部研修会・地方講習会の詳細は、本誌第77巻第8号掲載予定の「第3報」を参照願います。)

第1日目 10月29日(木)

(1) 総会並びに研究発表会

9:00~9:30 受 付

9:30~10:15 支部総会

10:15~10:45 支部賞授賞式

10:45~11:00 休 憩

11:00~12:00 特別講演

12:00~13:00 昼食・休憩

13:00~17:00 第52回支部研究発表会

(2) 情報交換会

18:00~19:30 会場:「ラ・プラス青い森」カメラア

第2日目 10月30日(金)

(3) 支部研修会・地方講習会

9:00~9:30 受 付

9:30~9:40 開会挨拶

9:40~12:00 第43回支部研修会

『環境公共の推進』(仮)

12:00~13:00 昼食・休憩

13:00~15:20 第33回地方講習会

15:20~15:30 閉 会

4. 参加申込み

平成21年度の大会全般を青森県が担当しますが、研究発表会のプログラム編集は弘前大学が担当します。

本報では『研究発表申込み』についてご案内し、『参加申込み』等は、本誌第77巻第8号掲載予定の「第3報」においてご案内する予定です。

(1) 研究発表申込み/問合せ先

研究発表要旨集原稿に投稿票を添えて、下記にお申し込み下さい。

〒036 8561 青森県弘前市文京町3

弘前大学農学生命科学部 加藤 幸(かとう こう)

TEL&FAX 0172 39 3869

E-mail : kato@cc.hirosaki-u.ac.jp

(2) 要 領

研究発表要旨集原稿・投稿票の書き方については下記の農業農村工学会ホームページを参照して下さい。

<http://www.jsidre.or.jp/>

(3) 発表時間・発表手段

発表時間は15分以内(発表12分,質疑3分)

発表補助手段 パソコン使用可 Power Point, CD R, USBメモリ使用可)

(4) 研究発表申込み受付期間

平成21年8月10日(月)~8月31日(月)

【締切厳守】

5. 会場への案内

(1) JR利用の場合

・JR青森駅東口から徒歩25分(タクシーで5分)

(2) 航空機,高速バス利用の場合

・青森空港より空港連絡バスで約35分,

・空港連絡バス・高速バスとも柳町通り(やなぎまちどおり)バス停下車,徒歩3分

(3) 自家用車の場合

・青森自動車道青森中央ICから約10分

自家用車の場合,「ラ・プラス青い森」の駐車場を利用できますが,台数に限りがありますので,満車の際は近隣の有料駐車場をご利用ください。

6. 宿泊について

宿泊についての斡旋はいたしませんので,ご了承下さい。

東北支部大会の最新情報は下記ホームページでお知らせいたしますので,ご活用下さい。

<http://www.2.vmas.kitasato-u.ac.jp/nntohoku/>

第66回京都支部研究発表会の開催について(第2報)

技術者継続教育プログラム認定申請中



1. 研究発表会

- (1) 日時 平成21年11月5日(木)
10:00~17:00(受付開始9:00~)
- (2) 会場(開会式~講演会~分科会)
富山県民会館(富山市新総曲輪^{しんそうがわ}418)
- (3) 会場までのアクセス
JR北陸本線「富山駅」南口から徒歩10分

2. 情報交換会

- (1) 日時 平成21年11月5日(木)18:00~20:00
- (2) 会場 富山県民会館8階 レストラン「キャッスル」

3. 現地研修会

- (1) 日時 平成21年11月6日(金)
9:00 県庁前発 16:00 富山駅北口着
- (2) 内容

「立山・治水と利水コース」

立山カルデラ砂防博物館(立山町)

「立山カルデラの自然と歴史」および「砂防」の二つのテーマを「知られざるもうひとつの立山」と位置づけ、立山カルデラを中心とした立山における人と自然のかかわりを紹介しています。

横江頭首工(立山町)

国営常願寺川農業水利事業によって建設された横江頭首工は、平成20年度に改修が終わりました。施設の配置や構造は景観にも配慮され、両岸分水工下流部からは正面に尖山を見据えることができ、左岸連絡水路橋は三連アーチ構造が採用され、晴天時にできる欄干の陰影は立体感のある情景を醸し出します。

常西用水プロムナード(富山市)

佐々成政による「佐々堤」や防備林として江戸時代に整備された「殿様林」の松並木が残されており、往時の偉業に触れることができます。

「となみ野・文化遺産コース」

世界遺産相倉集落(南砺市)

相倉合掌造り集落は世界遺産に登録されています。棚田オーナーによる農作業が実施されるなど、地域の農地や景観を保全する活動が行われています。

閑乗寺公園(南砺市)

標高約300mの高台にある公園です。美しい散居村の景色を眺めることができます。

となみ散居村ミュージアム(砺波市)

砺波平野の散居景観は、日本の稲作農村を代表する景観のひとつと言われています。『となみ散居村

ミュージアム』は、その景観を保全することや、この地方に伝わる伝統文化を全国に発信し、地域の賑わいを創出するために、となみ野田園空間博物館の拠点施設として整備されました。

4. 投稿の申込み等

- (1) 原稿投稿先および期限

研究発表申込みをされた方は、下記の投稿要領に基づき作成した講演要旨原稿に投稿票(様式は、<http://www.jsidre.or.jp/news/kaikoku/21shibuform.xls>よりダウンロードして下さい。)を添えて、平成21年8月末日までに、下記・新潟大学吉川宛に届くようお送り下さい。

〒950 2181 新潟市西区五十嵐2の町 8050 番地

新潟大学農学部 吉川 夏樹

TEL&FAX 025 262 6653

E-mail: natsuky@agr.niigata-u.ac.jp

- (2) 投稿要領

- ・投稿発表者は、農業農村工学会会員とします。

- ・投稿要領および原稿の書式については、農業農村工学会ホームページ内の「支部講演会の投稿票について」(<http://www.jsidre.or.jp/news/kaikoku/21shibutoukou.htm>)を参照して下さい。枚数は函面を含めて2枚とします。発表時間は12分(質疑応答は3分)です。原稿はそのまま印刷しますので、鮮明なものを提出して下さい。発表の補助道具としてパソコン(OSはWindows, ソフトはPowerPoint 2000)を準備します。データはCD-R, USBメモリーでご用意下さい。(OHP, ビデオプロジェクタを希望する場合はご連絡下さい。)

5. 参加申込方法

- (1) 参加申込み

参加申込みは、農業農村工学会ホームページ内の京都支部研究発表会参加申込みについて(http://www.jsidre.or.jp/newinfo/kyoutoshibu_kennkyuuhappyoukai.htm)にアクセスし、参加申込書をダウンロードして下さい。参加申込書に必要事項を記載の上、電子メールにて matsui@chubu-kanko.jp まで送付して頂きますようお願いいたします。(電子メールが使用できない場合は、FAX・郵送でも受け付けいたしますが事務の簡素化のため電子メールの使用にご協力をお願いします。)

- (2) 申込期限 平成21年9月11日(金)

- (3) 参加費等 研究発表会 4,500円

情報交換会 5,000円

現地研修会 5,000円(昼食代含む)

- (ア) 昼食

会場付近にレストラン等はございますが、混雑が予想されます。弁当を1,000円/個で受け付けていますのでご利用下さい。

(イ) 参加費の納入

申込みを受け付けた後、より9月下旬以降に確認書・請求書を送付いたしますので、内容を確認のうえ、参加費を「6. 申込み・振込先・問合せ先」の振込先へ10月30日(金)までにお振り込み下さい。振込手数料については振込人負担でお願いします。

なお、納入された参加費については、参加の有無にかかわらず返金いたしませんのでご了承下さい。

(4) 宿泊施設の斡旋

宿泊の斡旋は、中部観光株式会社を通じて行います。ご要望の方は、農業農村工学会ホームページ内の京都支部研究発表会参加要領の部宿泊斡旋施設一覧表の中から施設をお選びいただき、参加申込書に該当するホテルの記号を記載して下さい。なお、客室数の都合上希望に添えない場合がございますのでご了承下さい。

6. 申込み・振込先・問合せ先

(1) 申込先

中部観光株式会社 担当：松井
〒939 8214 富山県富山市黒崎 445
申込用電子メールアドレス matsui@chubu-kanko.jp
(取り消しも電子メールで結構です。)
☎076 425 3011 FAX 076 421 4635
営業時間：平日および第1・第3・第5土 9:00~
17:30 (第2・4土,日,祝日は休み)

(2) 振込先

北陸銀行 丸の内支店 普通口座 0662720
口座名 中部観光株

7. 事務局

富山県農林水産部耕地課内
第66回農業農村工学会京都支部研究発表会運営委員会事務局
担当 橋本,宮田
☎076 444 9640 (直通) FAX 076 444 3437
E-mail : masayoshi.hashimoto@pref.toyama.lg.jp
yoshihito.miyata@pref.toyama.lg.jp

農業農村工学会選書 17

機能保全における性能設計入門

(社)農業農村工学会発行

目 次

第1章 性能設計の現状

- 1.1 はじめに
- 1.2 包括設計コード
- 1.3 性能設計の技術論的特徴
- 1.4 他分野の状況
- 1.5 農業・農村整備事業と性能設計
- 1.6 性能設計とストックマネジメント(マクロマネジメント)
- 1.7 補修・補強と性能規定化(ミクロマネジメント)
- 1.8 性能設計の到達点

第2章 信頼性の照査

- 2.1 施設の信頼性
- 2.2 部分安全係数法の理念と現状
- 2.3 レベル 信頼性設計法
- 2.4 レベル 信頼性設計法
- 2.5 感度係数とその意味
- 2.6 水利構造物に適した部分安全係数の値
- 2.7 開水路側壁基部の安全性に関する信頼性設計例
- 2.8 信頼性設計法の今後

第3章 安全性の照査

- 3.1 限界状態設計法の概要
- 3.2 構造物における安全性の照査

- 3.3 曲げモーメントおよび軸方向力に対する安全性の照査
- 3.4 せん断力に対する安全性の照査
- 3.5 終局限界状態の照査例

第4章 使用性の照査

- 4.1 使用限界状態の検討
- 4.2 断面力および応力度の算定法
- 4.3 曲げひび割れ発生の照査
- 4.4 曲げひび割れ幅の照査
- 4.5 ひび割れの使用限界状態の照査例
- 4.6 今後の課題

第5章 耐久性の照査

- 5.1 長期構造性能の照査
- 5.2 農業水利構造物の耐久性設計
- 5.3 性能照査型のコンクリートの配合設計
- 5.4 鉄筋コンクリート開水路の耐久性設計例

第6章 機能保全

- 6.1 農業水利施設の機能保全
- 6.2 農業水利施設の機能診断

第7章 施工および補修・補強

- 7.1 RC開水路の施工
- 7.2 RC開水路の補修・補強

A5判 約200ページ 定価4,500円(内税・送料学会負担)
会員特価2,600円(内税・送料学会負担)
〔会員特価は、個人会員による前金購入の場合のみ適用されます〕

申込先 〒105 0004 港区新橋5 34 4
(社)農業農村工学会
☎03 3436 3418 FAX 03 3435 8494